

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	菜の花 清田館 2階	評価実施年月日	平成21年5月30日
評価実施構成員氏名	葛西清仁、柴田啓子、新沼 工、宮川 芳子、吉川 文加、長尾 晃晴、山内 恵子、會田 桂子、小松田 芳江		
記録者氏名	葛西 清仁	記録年月日	平成21年7月7日

北 海 道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念の中に「地域とのふれ合いを大切にしたい暮らし」「住み慣れた地域での生活を「笑顔」で送れるよう支援する」を掲示している。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームに掲示している。又、名札の裏にも貼ってありいつでも確認できるようにしている。</p>	○	<p>朝のミーティングの時に理念を唱和し、今日の目標をかかげ介護していきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関に掲示している。又、ご家族様にも理解してもらえるよう菜の花便りにも掲載している。運営推進会議でも理念を伝えている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ゴミだしや、散歩時に笑顔で挨拶をかわしている。近隣の方より、山菜や、お花等を頂いたり又、隣の公園で小さな子供さんや、お母さん達と交流をしている。</p>	○	<p>菜の花清田館に立ち寄って頂ける機会を多くして行きたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の新年会や総会にも出席している。町内清掃や、ジンギスカンパーティーに入居者様と一緒に参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>入居の申し込みの際にグループホームについての相談にのったり、アドバイスをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員に自己評価表を渡し記入してもらった。外部評価での指導を受けた項目は改善に向け検討している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>二ヶ月に一度開催している。ご利用者様、ご家族様、運営者、町内会役員、町内会住民、地域包括支援センター職員の方々が参加をしている。行事報告や、最近の取り組み等を話し合いアドバイスを頂きサービス向上に役立て活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市介護保険課事業指導係りに疑問点等を電話にて聞いている。又、包括支援センターと連携を取りサービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護の外部研修、内部研修に参加し学んでいる。現在ホームでは成年後見制度を活用している利用者様はいないが、ご家族様より相談を受けた時は活用出来るよう検討していきたい。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の外部研修、内部研修に参加している。参加者は伝達研修を行い虐待防止に努めている。又、声掛けや、言葉使いにも注意している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居、退去の際は本社職員と共に、ご利用者様、ご家族様が納得いただけるよう説明している。又、医療行為が必要な方には、担当医、ご家族様、職員と充分に検討、納得のうえ退去されている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の意見、不満、苦情等発生した場合はユニット会議などで改善に向けての話し合いをしている。思いを伝えられない入居者様には、言葉や態度、表情から察する努力をしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者様の暮らしの様子は、面会時に伝えている。金銭管理については、個人出納簿で管理し、毎月ご家族様に郵送している。職員の異動については菜の花便りや、毎月のお手紙にて紹介している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付の掲示をしている。面会時に意見等がないか聞いている。ご家族様よりの意見、苦情などは、スタッフ、管理者、会社に伝えられ早急な対応と改善に努めている。又、管理者会議で他館であった苦情や事例の報告があり清田館で同じ事がない様努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	二ヶ月に一度の管理者、リーダー会議が持たれ職員の意見や提案を聞く機会が持たれている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の入退院、通院や状況により、必要時間帯に職員の調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の要望や、意見をいつでも言える環境作りにも努め離職をなくす努力をしている。離職者も入居者様1人ひとりに挨拶し明るい雰囲気でのお別れを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>社内の新人研修、スタッフ研修、ケアプラン研修、リーダー研修、管理者研修、等の開催、又、外部研修にも積極的に参加をしている。又、研修に参加した職員はユニット会議で伝達研修もしている。通信制の大学院で学んでいるスタッフもいる。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>清田区グループホーム地区連絡会が定期的に行われている。交流会、研修会が行われている。交流会、研修会がもたれサービス向上に向け取り組んでいる。</p>	○	他のグループホームとの交流をスタッフも含めて実施して行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>スタッフルームがあり休憩する事が出来る。不定期ながら食事会、研修会を行っている。介護部長も頻回にホームに来て相談にのってくれる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>資格や、継続年数に応じて昇給がある。資格取得に向け勤務についての配慮等をしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前にお会いして不安な事、どのように暮らしたいか等を話合える機会を持っている。又、ホーム内を見学して頂き納得後入居して頂けるよう対応している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に病歴、不安な事等さまざまな情報を傾聴し話し合う機会を持っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族様にとって最善なサービスを提供出来るよう努力している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学して頂き食事やレクリエーションを一緒に行い、他入居者様と溶け込む事が出来るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様と一緒に食器拭き、掃除、庭いじりを行い一緒に生活していく視点を大切にしている。畑の種まきの仕方や、大根のまびき方法等教えて頂いている。人生の先輩である入居者様から学ぶ事も多くお互いに今と昔の違いを学び合っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族さまが、ホーム行事に参加して頂き共に過ごす時間がとれるよう支援している。来訪時には、写真や記録をみて頂き普段の様子や、気になっている事、ご家族様の希望、意向を聞いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様に毎月手紙を郵送し、日頃の様子を伝えている。来訪時には自室でゆっくり過ごす事が出来るように、お茶を用意、雰囲気作りに努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様にはできるだけ来訪して頂き、一緒に外出、外泊が出来るよう支援に努めている。毎週日曜日にご家族様と教会に行かれる入居者様もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係を把握し、レク活動時やテーブルの座席に配慮している。又、入居者様の状況によっては、スタッフが調整役として入る事もある。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後でも、相談等電話が来た時は対応して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の希望や意向にそった支援をしている。アセスメントより得た情報や以前の、仕事、趣味などを考慮している。又、思いを伝えるのが困難な入居者様には日々の行動や表情、サイン等から把握するようにしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前関わった事業所、医療機関からの情報収集や、ご家族さまには、センター方式Aシートを記入して頂いている。又、来訪時にお話を訊き把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を活用、出来る事、出来そうな事を見極め支援している。心身の状況や有する力は日々の介護の中で観察し、記録に残しスタッフ全員で情報の共有をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員の適切な監理のもとに、担当者がアセスメント、モニタリングを行い、更にご本人、ご家族様の意向も取り入れ、担当者会議で検討、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常は3ヶ月毎に見直しを行っている。入院や状況に変化が生じた時やご家族ご本人からの要望等があった都度現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事量、飲水量、排泄、入浴、バイタルや身体状況は個別記録に記入している。又、入居者の言動等も記録に残している。全職員が情報を共有し、介護計画の見直しにも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者様の状況に応じて通院や、外出等、柔軟に対応している。又、ホーム対応が困難な時は、本社から応援がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	子供110番の指定となっている。毎年2回の消防署の協力により、避難訓練や消火活動をご入居者、町内会の方と実施している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の訪問理美容サービスと訪問歯科を利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	清田区内の介護施設に関する問い合わせがあった時は、地域包括支援センターを勧めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	かかりつけ医については、ご家族様と相談し決めている。又、ご入居者様に変化が見られた際は、担当医の指示を受けている。受診結果については、受診後ご家族に電話連絡している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	訪問診療医師に相談し、指示や助言を頂いている。認知症の専門医の受診が必要な場合は、その都度担当医より紹介状を頂き受診している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回看護師が健康管理に来ている。ご入居者様について心配の事や、疑問点等、気軽に相談しアドバイスを頂いている。併設しているデイサービスの看護師に相談する事もある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は病院に面会に行き、更に、医師、看護師、相談員との情報交換を行い早期退院が出来るよう連携をとっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化した場合の終末医療に関しては同意書(重度化した場合の対応指針)を頂いている。医師、ご家族、職員等で話し合い、入居者、ご家族の意向を尊重し今後の方向性を決めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人や、ご家族様の意向を踏まえ、医師、訪問看護、職員との話し合いを行い、出来る事、出来ない事を見極め介護について検討している。	○	終末期の入居者様を支える為に。職員の質の向上に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>アセスメント、ケアプラン、日々の生活情報等を事業所に渡し、情報交換をし、住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとり尊重した声掛けするよう言葉使いには特に注意しておりユニット会議でも話し合いをしている。又、個人情報が入居者様の目に届かない場所に保管している。入居者様のプライバシーに関する事は、入職時個人情報の守秘義務について誓約書を交わしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>難聴の方には耳元でゆっくりと話をしている。時には、筆談にて説明し納得して頂ける様対応している。出来るだけ自己決定できるような声掛けを行っている。外食や、出前を取る時等メニュー表から食べたい物を選んで頂いている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者様のその日の状況や、ペースにあわせて対応している。起床時間は決まっていない為、遅くまでテレビを観て朝寝坊する方もいる。又、習字、大人の塗り絵、読書等ご本人の好きな事が出来るよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎朝お化粧されている入居者様もいる。又、行きつけの美容室に、ご家族様と行かれる方もいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>アレルギー、好き嫌いのある食物(肉、ピーマン)等の方には別の食材で対応している。料理の下準備や毎食後の茶碗拭き、テーブル拭き等、職員と一緒にやっている。又、家庭菜園で入居者さまと収穫した野菜等料理に取り入れている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は、入居者様の嗜好品を把握しており、飲み物についても好きな物を飲んで頂いている。コーヒーが好きな方がおり、その都度、飲んで頂けるよう対応している。又、おやつは出来るだけ手作りの物とし、時には、入居者と一緒に作り喜んで食べて頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、入居者の状況に合わせて誘導している。日中パッドを使わずトイレでの排泄だけになったご入居者もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの体調や状況を把握し週2~3回入浴をして頂いている。湯の温度や、入浴時間も希望に合わせて楽しんで頂けるよう支援している。又、体調不良の時は足浴や、清拭を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	リビングのソファで休息をとられる入居者様もいる。夜遅くまでテレビを見られる方もいる。又、夜間眠れない時は、スタッフと一緒に温かい飲み物を飲んで頂き安心して眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴に合わせた活動が出来るよう支援に努めている。花壇の整理、畑仕事、掃除、茶碗拭き、洗濯たみ等、ご入居者様の出来る事をして頂き、役割として定着している。又、絵の好きな方は絵を書いたり、塗り絵、習字、編み物が好きな方もいて準備等をし自由に楽しんで頂けるよう支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失する可能性もあり、ご家族様と相談、了解のもと小額のお金を持っている方もいる。買物に行った時は、入居者に支払いをして頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は隣の公園に散歩に行っている。畑の種まき、花壇の草取り水やり等している。又、ケーキとコーヒーを飲み近くの教会の喫茶店に行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月行事を計画し、実施している。小樽ヒルトンホテルのバイキング、円山動物園、お花見、ISIYAファクトリー、紅葉等、四季に合った行事を計画し外出している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様の希望に応じその都度電話や手紙の支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会が出来るよう時間は決めてはいない。自室でゆっくりとお話できるようお茶等を出している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践をしている。特に、言葉の拘束がないか職員間で注意をしている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけていない。日中は、玄関のセンサーと所在の確認、見守りの徹底にて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアで記録をしながら見守りをしている。入居者様一人ひとりの状況に合わせた所在確認をしている。又、夜間帯は1時間毎の見回りをしている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、漂白剤、洗剤等は入居者の目につかない場所に保管している。異食行為につながる事もあるので、入居者の状態に合わせた取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデントレポートをもとに原因を把握し対応、事故防止に取り組んでいる。又、内部研修で事故防止についてを学んでいる。嚔下状態の悪い入居者様には、きざみ食やトロミをつけて食べて頂いている。又、内服薬については事故防止の為、内服毎3回の声だし確認をしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法の実践を日常的に把握できるようカンファレンスでイメージトレーニングを実施したり、内部研修で学んでいる。又、救急救命講習会に参加している。	○	カンファレンスで事例を通して急変時の応急手当が出来るよう常に学んで行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て地域の方も来て頂き、年2回防災訓練を行っている。消火器の使い方も実際に体験している。	○	消防署からの講評の結果をふまえ、自衛消防訓練を1度追加する予定。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒の可能性のある方には、ご家族様とも相談し、対応策を話し合っている。又、積極的に散歩出かけ下肢筋力低下の防止に努めている。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定、水分、食事量、排泄チェックを行っている。身体状況、言動、行動を注意深く観察「いつもと何かが変わった」と言った小さな変化についても情報を共有し対応に結び付けている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は個人ファイルに閉じスタッフ全員が確認できるようにしてある。誤薬をしない為、声だし3回の確認をしている。又、副作用については、看護師や薬剤師に相談している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防の為、毎朝の牛乳、水分摂取の促し、散歩、体操を行っている。排便チェック表を活用し、排便状況を把握している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食前のうがい、食後口腔ケアを行っている。入居者様の状況にあわせ必要な方には支援をしている。口腔ケアチェック表も作成し、みがき忘れのないようにしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立を作成している。カロリー、栄養バランスを考えた献立であるが、食材により入居者様の好むメニューにアレンジする事もある。食事量や水分量はチェック表に記入、1日1300mlを目標に声掛け対応している。好きな飲み物を提供し、少しでも飲水して頂けるよう支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ対応として、入居者様、スタッフ全員が予防接種を行っている。ご家族様が来訪された時も体調確認をし、うがい、手洗いの協力を得ている。ノロウイルス対策として、日に3度のハイターによる消毒を行っている。新型インフルエンザ対策としてのマニュアルを作成、手洗いうがいの徹底をし、感染防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎食後、まな板、布巾、包丁の消毒をしている。冷蔵庫や冷凍庫内の食品チェックと掃除をしている。在庫管理、賞味期限のチェックは頻回にしているが、栄養士も定期的に来訪し確認をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>大きくて見やすい表札をつけている。玄関の周りには花を植え安心して出入り出来るようにしてある。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビング、居室は自然採光が入りいつも明るい。更にトイレ、浴室にも手すりがあり、安全である。浴室は両サイドから介助できる様になっている。入居者様が作成した習字等を飾ったり、又、毎月の行事で撮った写真を壁に飾り楽しんでみている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食卓テーブル、ソファ、畳部屋があり自分の好きな場所で気の合った人同士が談笑している。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の使用していたタンス、ベッド、鏡台等、使い慣れた物を置いている。又、本や写真など思い出の品物を持参されている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>ベランダが設置されている為、こまめに開放し換気している。ご入居者様の状況に合わせて温度、湿度を調整している。冬場は湿度をあげる為、バスタオル、洗濯物をリビングに干し対応している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	リビングや居室も段差をなくしている。トイレや浴室、リビングにも手すりを設置している。浴室も両サイドより出入りが出来るよう工夫されている。車椅子にて対応できるトイレも設置されている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	リビングに時計、カレンダーを設置している。自分のお部屋がわかるよう、手作りの台紙の上に似顔絵を掲示している。混乱や失敗が生じた時はユニット会議にて話し合い対応をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇への水やりや、天気の良い日はベランダにてスタッフと一緒に洗濯物を干している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 午前の吉幾三体操、ラジオ体操、午後からのパワーアップ体操、天気の良い日は隣の公園までの散歩を行い下肢筋力低下の予防を行っている。毎月行事を計画し普段行けない所に行っている。歩行困難の方も全員参加している。又、地域の町内会行事にも多くの入居者様が参加している。